

あんなこと、こんなこと

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



5月1日～中旬にあった
市内の話題を中心に
ご紹介します。

泥んこで田植えを体験

早苗の季節となった5月中旬、米づくりについて学習しようとして下知小学校5年生児童による田植え体験がありました。学校西の水田で、地元の高齢者でつくる修徳会連合会員の指導の下、児童らは泥にまみれながらも、手植えで積極的に作業しました。秋には稲刈りも体験する予定で、身近な地域での稲作を学び、農作業を通して農家の苦勞を知ることで、ふるさとを大切にする心も育んでいきます。



パパと一緒にアウトドア満喫

男性保護者と小学生を対象にした「アウトドア・クッキング」が、板取キャンプ場（杉原）で開かれ、10組の親子が大自然にふれながら料理を通してコミュニケーションを図りました。男女共同参画サポーターや市内ボーイスカウトの協力などで、牛乳パックを利用して調理するホットドックを完成させたりと、アウトドアならではの料理づくりに挑戦。普段あまり料理をしない父親たちも大自然の中で腕をふるっていました。



集めた本をリサイクル

今年度から春・秋の1日ずつの開催となった関市立図書館の「春の古本まつり」が行われました。地域住民の方から寄付されたあらゆる分野の本を無償で譲るイベントで、わかさ・プラザの多目的ホールに集められた本は、約23,000冊。開場時には長蛇の列ができるほどのにぎわいぶり、多くの親子連れなどが掘り出し物を見つけようと、真剣な表情で本探しに没頭していました。次回開催は11月4日（日）の予定です。



うなぎ密度日本一のまち!?

関市のおいしい「うなぎ丼」を全国にPRし、うなぎのまちのイメージ浸透を図ろうと市観光協会が「関うなぎマップ」を作成しました。マップには、うなぎ専門店6店舗と和食屋、寿司屋、創作料理屋など19店舗のメニューや特徴が写真と共に紹介されています。この規模のまちにこれだけ多くのうなぎ丼を提供する店があるのは珍しく、うなぎ文化の根付く関市のおいしいうなぎを食べに来てほしいと呼びかけています。



待望の第2グラウンド完成

平成18年度から整備に着手、昨年度末に完成した「関商工高校第2グラウンド」の竣工式が5月1日の学校創立記念日に合わせて開かれ、全校生徒が出席して完成を祝いました。これまで専用グラウンドが無く、遠くの市施設で部活動をしてきた硬式野球部、サッカー部などが新練習場として使用します。待望のグラウンド完成で、一つでも多くの勝利をつかむため、今まで以上に練習に力を注ぎたいと誓い合いました。



若葉が萌える茶摘みの季節

上之保中学校全校生徒が、地域の特産品の生産過程に触れる毎年恒例の茶摘みが学校近くの茶園で行われました。生徒らは、地元のボランティアの方から茶摘みの基本「一芯三葉」の指導を受けて、丁寧に摘み取っていきました。今年の収穫量は約60キロとなり、製茶工場で加工されます。6月に「新茶を味わう会」を開き、地域住民を招いて香りや味を楽しむ予定です。



ゴールデンウィークのお楽しみ

5月の恒例のイベント「ゴールデンウィーク・スペシャル2012」がわかさ・プラザで開催され、多くの親子連れがダンスや工作などを楽しみました。市内のボランティア団体らが集まり、約40項目の催し物を実施。屋内外の会場で、デコレーション教室や竹細工、ツイストパン作りなどが繰り広げられました。また、エア迷路や国体PRコーナーなど、子どもたちは歓声を上げて一日を満喫していました。

こぼれ話

岐阜市で「清流マラソン」が開催された5月20日、市内では「市民健康ウォーキング（春季）」が開かれ、私は日ごろの運動不足を解消しようと、初めてこの催しに参加しました。この日は、道の駅平成を発着点とする高澤観音までの約9キロの行程で、市内外から訪れた参加者とともにさわやかな汗を流すことができました。武儀地域は、私がかつて勤務していた慣れ親しんだ場所で、普段は車でしか通らない道をゆっくり歩いてみると、あらためて故郷の町並みや豊かな自然、新緑の眩しい山々の景色を堪能することができました。また、参加された皆さんに地域のことを知っていただくよい機会となったほか、全員がリタイアすることなく無事に完歩できたことをとても嬉しく感じることができました。

市民健康ウォーキングは、市スポーツ推進委員（旧体育指導委員）の皆さんの協力で、季節ごとにコースを替えて開催しています。ウォーキングを通して新しい仲間を増やしたり、心地よい汗を流したりしませんか。市では、市民の皆さんが健康で長生きし、楽しい人生を過ごしていただく講演会やスポーツ教室など、さまざまな催しを通して健康づくりに取り組んでいます。各種健康診査も含め、積極的な参加をお願いします。

